



さつきよくか  
作曲家データ

- ニックネーム：赤毛の司祭
- 生年月日：1678年3月4日（うお座）
- 没年月日：1741年7月28日（63歳）
- 職業：司祭、ヴァイオリン教師、宮廷学長
- 得意ジャンル：ヴァイオリン協奏曲、オペラ

♪ ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」第1集より 四季「春」RV.269 第1楽章

ヴァイオリン協奏曲集の第1番「春」から、この曲は第1楽章です。

ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲集（『和声と創意の試み』）は全部で12曲の曲集です。第1番は「春」、第2番は「夏」、第3番は「秋」、第4番は「冬」と名づけられ、この4曲をまとめて『四季』といいます。どの曲も3つの楽章からなり、それぞれの楽章に“ソネット”という短い詩がつけられています。歌の詩ではなく曲のイメージを言葉で表したもので、これを書いたのはヴィヴァルディ本人と言われています。

『四季』の中でも一番有名なのは、明るく楽しい雰囲気を持つ「春」です。第1楽章のソネットはこのように始まります。「春がやってきた。小鳥たちはうれしそうにさえずりながら春にあいさつをする。…」

♪ ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」第1集より 四季「夏」RV.315 第3楽章

ヴァイオリン協奏曲集の第2番「夏」から、この曲は第3楽章です。「夏」といえば、イキイキとした音楽をイメージするかもしれませんが、この曲では暑さでグッタリした様子が表現されています。第3楽章のソネットはこのように始まります。「彼が心配したとおりになってしまった。空には雷鳴、そして雹（ひょう）が麦の穂を折り穀物を倒す。…」

“協奏曲”とは、ひとりで演奏する独奏（ソロ）とオーケストラがいっしょに演奏する形で、『四季』でのソロ楽器はヴァイオリンです。また、この時代のオーケストラは現在の形より小さな規模で演奏します。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロなどの弦楽器とチェンバロという組み合わせです。